

学力向上を図るための全体計画

東京都教育委員会教育目標
互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間

大田区教育委員会教育目標
意欲をもって自ら学び、考え、行動する人
思いやりと規範意識をもち、社会の一員としての役割を果たす人
自らの可能性を伸ばし、未来を拓き地域を支える人

保護者・地域の期待や願い
(保護者アンケート調査より)
学習意欲の向上と基礎学力の定着
コミュニケーション力の育成
心の教育と学校図書館の充実
体力・健康の増進
少人数指導の充実 など

学校教育目標： **考える子** **感じる子** **鍛える子**

学校経営方針

A T A K K教育 A・T...明るく楽しい A...安全・安心 K...きれい K...規律のある
教育目標及び年間指導計画等に基づき、創意ある教育活動を進めるとともに、児童が自ら学び考え表現することができるための「わかる授業」と「考える力の育成」を目指す。学力向上に向けた基本方針として、次の5点を掲げる。
児童が学習のめあてや見通しをもてるようにする。
児童一人一人の興味・関心に応じ、体験学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れ、成就感や達成感をもてるようにする。
児童が学習について喜びを感じることができるように、励ましや賞賛を多く取り入れる。
基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために、児童一人一人に応じた指導方法を工夫する。
教え込みの授業から児童が自ら学び、考える授業への転換を図る。

各教科の指導の重点

大田区学習効果測定の結果分析を行い、学年ごとに授業改善プランを作成し、学力向上を図る。
算数科において、習熟度別少人数指導(中・高学年)及びチームティーチング(低学年)を行い、児童一人一人の理解を深め、学習指導と評価の工夫をすることにより、基礎的・基本的内容の徹底を図る。
すべての学習活動の基盤となる言語力の育成を重視し、各教科の学習において思考力・判断力・表現力を育てる指導を工夫する。
児童の学習成果を発表する機会を通して保護者や地域の人々との連携を深めるとともに、保護者や地域の人々が学習協力者として活躍できる体験的な活動を推進する。

総合的な学習の時間の指導の重点

地域の歴史や文化、自然や産業等を生かした学習
「ほたるのさと」や多摩川等を通して、自らの生活との関連や自然環境等について、自ら課題を見出し解決する学習
他者への思いやりや社会の一員としての自覚を育む勤労・福祉体験活動
国際理解の心を育む外国語活動、伝統文化体験学習

進路指導における指導の重点

一人一人のよさや肯定的な自己理解を促すキャリア教育の推進
矢口中学校や近隣幼・保・小との連携

「確かな学力」として育成したい力、態度

- * 自ら課題を見つけたり解決しようとしたりする意欲・態度
- * 考える力
- * 豊かに表現する力
- * 読み書き計算等、基礎的な知識や技能

本校の授業改善に向けた視点

<校内研究テーマ>
考える力の育成

道徳教育の指導の重点

だれに対しても思いやりの心をもち、協力し助け合う心を育てる。
生命を尊重し、健康で安全な生活をおくろうとする態度を養う。
自ら考え判断し、最後までやり抜くことのできる心を育てる。
公德心をもち、節度ある生活をしようとする態度を育てる。

特別活動の指導の重点

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、よりよい学校・学級生活づくりに参画できる自発的、自治的な態度を育てる。
児童会活動・クラブ活動を通して、学年・学級が異なる児童が協力し、支え合って活動する自主的、実践的な態度を育てる。
学校行事を通して、集団への所属感、連帯感を深め、責任を果たし目標を成し遂げようとする自主的、実践的な態度を育てる。

生活指導における指導の重点

あいさつ運動の充実と矢西スタンダードの活用を通して、規範意識を高める。
「早寝早起き朝ごはん」月間を活用し、よりよい生活習慣の形成を図る。
家庭、地域、関係諸機関との連携による健全育成を図る。
「子どものこころサポート月間」におけるメンタルヘルスチェックを活用し、いじめや不登校など、児童の抱える課題について家庭やスクールカウンセラーとの連携を密にして、豊かな人間関係を育む。
防犯体制の整備と防犯教育の推進、安全指導の充実を図る。

指導内容 指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における 研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との 連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・算数ステップ学習の実施 ・漢字検定において目標の級に合格しない児童への指導 ・問題解決的な学習の一層の充実 ・電子黒板等の機器の効果的な活用 ・おもしろ理科教室、理科支援員の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時数の確保 ・放課後補習教室の実施(3年生以上) ・土曜補習教室の実施(年6回) ・朝読書の推進 ・夏季補習授業の実施 ・夏季登校日の実施 ・スクールカウンセラー懇談会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年・専科ごとの実践的な授業研究(事前・事後を含め、全員が研究授業を実施) ・初任者研修・年次研修の充実 ・特別支援教育に関する研修会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元における観点別評価規準の設定 ・児童の変容や課題を把握した個に応じた指導の充実 ・学年の発達段階に応じた自己評価(振り返りの導入) 	<ul style="list-style-type: none"> ・サマーチャレンジフェスティバル ・読み聞かせ、土曜スクール(P T A) ・学校H Pの充実 ・保護者アンケート ・「ほたるのさと」夜間一般公開 ・地域教育連絡協議会 ・学校見学会(幼・保)の実施

【1年生の授業改善推進プラン】

国語	関心・意欲	聞く・話す	書く	読む	言語
課題	<p>自分の思いや考えを伝えることを楽しんでいます。</p> <p><u>楽しんだり知識を得たりするために、自分で本を選んで読む。</u></p>	<p>大事なことを落とさないように最後まで集中して聞く。</p> <p><u>互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。</u></p>	<p>事柄の順序に気を付けて文章を書く。</p> <p><u>語と語や文と分のつなぎ方に気を付けながらつながりのある文章を書く。</u></p>	<p>文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う。</p>	<p>長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」「へ」「を」を文中で正しく使う。</p> <p><u>昔話や神話、伝承などの読み聞かせを聞いた</u>り、発表し合ったりする。</p>
改善策	<p><u>伝える目的や相手を明確にし、伝えるための手立てを指導する。</u></p> <p><u>伝える活動の後には、振り返り、活動のあとには、伝えることの喜びを味わわせる。</u></p> <p>朝読書の時間や図書室の定期的な利用を通して、読書に親しめるようにする。</p> <p>本との出会いの手がかりとして、読み聞かせも定期的に行う。</p>	<p>聞く目的を明確にして学習を進める。</p> <p>興味をもって聞くことができるように話題の工夫をする。</p> <p><u>事柄の順序を意識して、聞いたり、話したりする指導の工夫をする。</u></p> <p><u>相手の顔を見る、頷く、最後まで聞く、相槌を打つなどの共感的態度の育成を図る。</u></p> <p><u>対話から始め、4人程度の話し合いの場面を設定し、話し合いを振り返ることよさを実感させる。</u></p>	<p><u>内容のまとまりを考え、「始め - 中 - 終わり」などの構成を意識させる。</u></p> <p>観察カードや学習感想など、他領域でも書く機会を多くもち、互いに発表し合ったり読み合ったりして様々な表現方法に出会わせる。</p> <p><u>毎週、短い生作文を書く時間を設ける。</u></p> <p>「書くってたのしいね」を活用して作文の基礎基本を身に付ける。</p>	<p><u>内容や表現からみて大事な言葉や文に着目させ、それらについて感じたことや経験したこと、思ったことや考えたことなどを書き添えたり、関連付けて整理したりする。</u></p> <p><u>話し言葉による発表だけでなく、劇で演じることや書き言葉によって表したものを読み合うなどの交流を多くもつ。</u></p>	<p><u>視写、聴写などの指導を繰り返し行い、各領域における書く活動を積み重ねることで身に付けるようにする。</u></p> <p><u>昔話や神話、伝承などの読み聞かせをし、紙芝居や劇をすることで、伝統的な言語文化に触れる楽しさを味わわせる。</u></p>

算数		関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
	課題	<u>学んだことを生活の中で進んで使うことができる。</u>	<u>文章題を読んで、加法か減法かを判断し、式に表したり、式を読んだりできる</u>	<u>速く、正確に計算できる。何時何分の時刻を読む。</u>	<u>数量や図形についての豊かな感覚をもちそれらの意味や性質を理解できる。</u>
	改善策	<u>児童の実態に合った学習課題を提示する。生活の様々な場面で数を数えたり、長さ・広さ・かさなどを比べたりする。</u>	<u>式の意味を考えやすいように絵・図やキーワードを提示する。問題作りや絵本作りなどの活動を充実させる。</u>	<u>計算カードやプリントを使って繰り返し練習させる。模型時計を使って時刻を読む練習をしたり、日常的に時計を意識させたりする。</u>	<u>ブロック操作を通して、加法や減法の意味を理解しながら計算できるようにする。形遊びやかさ・長さ比べなど、操作活動を充実させて、量感覚を育てる。</u>
生活		生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き	
	課題	<u>身近な人や自然と進んでかかわりをもつ。</u>	<u>活動の楽しさを味わうと共に、自ら活動の工夫をする。</u>	<u>身近な自然の変化を楽しんだり、自分の成長を実感したりする。</u>	
	改善策	<u>友達と遊びを工夫したり、幼稚園や保育園との交流をしたりすることで人とかかわることの楽しさを実感できるようにする。小さな動物を飼うことを通して、自然とかかわることの楽しさを実感できるようにする。</u>	<u>小さな動物を飼ったり、様々な植物を育てたりする活動を通して、生長に応じたお世話の仕方を理解し、観察しながらその生長の様子を分かりやすく表現できるようにする。活動の計画や結果を友達と交流することでさらに活動の工夫ができるようにする。</u>	<u>季節に応じて多摩川の土手に行き、友達と遊んだり自然に親しんだりする。小さな動物を飼うことを通して、かかわりや成長の様子に気付くようにする。家族の仕事を理解し、進んでお手伝いをしたり、思い出集めをしたりすることで、自分の成長に気付くようにする。</u>	
音楽		音楽への関心・意欲・態度	歌唱	演奏の技能	
	課題	<u>自分の出す声や音に気を付けて、楽しく歌ったり演奏したりできる。</u>	<u>音楽に合わせて歌ったり身体表現したりして、互いに声を合わせて歌うことができる。</u>	<u>打楽器や鍵盤ハーモニカに親しみ、簡単な曲の演奏ができる。</u>	
	改善策	<u>範唱や範奏を聴かせたり、他の児童の声や音を聴いてよい点を発表させたりしてきれいな音や発声及び発音に気付かせ、音を合わせて表現するよさを味わえるようにする。</u>	<u>体の動きを伴った活動や互いに聴き合う活動を通し、友達の歌声や伴奏の響きを聴きながら自分の歌声に気を付け、共に歌う楽しさを感じることをできるようにする。</u>	<u>鍵盤ハーモニカについては、指使いやタンギングを確実に身に付けられるよう、空で指を動かしながら楽譜を読む練習や息の出し方を意識した息継ぎの練習をしていく。</u>	

図工		造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の技能
	課題	造形活動の楽しさを味わい、進んで取り組む。	<u>表したいことを見付け、形や色を楽しみながら表すことができる。</u>	<u>身近な材料や扱いやすい用具を、手を働かせて使いながら、想像を広げ、表し方を考える。</u>	<u>友人の作品や発表を通して、材料の形や色、表し方の面白さに気付く。</u>
	改善策	<u>材料の感じを味わう時間を確保し、制作の手順を明確にすることでイメージを広げられるようにする。</u>	思いのままに材料とかかわりをもたせ、試行錯誤する時間を十分確保する中で、作りたいものを明確にイメージできるようにする。	のりやはさみなど用具の正しい扱い方を身に付けさせる。 <u>材料の特徴を生かした表現方法をいくつか児童に提示し、児童が表したいことにあつた表し方を選べるようにする。</u>	作品紹介の時間を設定し、作品を見せ合う中で友達の作品について感想をもてるようにする。
体育		運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	
	課題	<u>運動に進んで取り組み、きまりを守り、仲良く運動したり、場の安全に気を付けたりする。</u>	仲間とのかかわりの素晴らしさを体験し、工夫して運動する。	自分のめあてをもって進んで学習に取り組むという学び方の基礎を身に付ける。 <u>初めての動きにも進んで取り組み、いろいろな基本的な動きを身に付ける。</u>	
	改善策	運動の順番やきまり、を明確にする。 <u>危ない動き、用具や器具の準備や後片付けの仕方を明確にし、活動の流れの中に場の安全を確かめる動きを入れる。</u> 易しい運動遊びから、一人一人の課題に合った活動を工夫する。 場の設定や時間などを考慮し、運動量を確保する。	友達と練習や競争をする活動を多く取り入れ、互いに協力し、励まし合ったり、意見を出し合ったりする機会をもつ。 <u>互いの動きを見合う時間を設け、友達のよい動きを見付ける。</u>	具体的なめあてがもてるような学習カードの工夫やいろいろな場面をとらえて、めあての確認や主体的な取り組みを促すよう配慮する。 <u>ごっこ遊びやゲーム化、音楽の活用などの工夫をし、初めての動きにも進んで取り組み、易しい動きを楽しんでできるようにする。</u>	

【2年生の授業改善推進プラン】

国語	<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的意識を明確にした授業を工夫することで、意欲的に文章を読んだり、話を聞いたりすることができるようになってきた。 ・みんなの前で話す機会や音読を多く取り入れたことで、声の大きさや速さに気をつけ、はっきりとした発音で話すことができるようになってきた。 ・「あのねタイム」を設け、「かくってたのしいね」を活用することで書くことへの抵抗が少なくなり、基礎・基本が身につくようになった。 			
	課題	<p>大事なことを落とさないように最後まで集中して聞けるようにさせたい。</p>	<p>事柄の順序を考えながら、語と語や文と文の続き方に注意して書けるようにさせたい。</p>	<p>事柄の順序や場面の様子に気付いたり、想像を広げたりしながら読めるようにさせたい。</p>
	改善策	<p>学習の初めに、話を聞く時の目的と聞き方を提示し、見通しをもたせる。</p>	<p>事柄の順序を考えて書くために、書く前に順番を考えさせる。ミニ作文・観察カード・学習感想など、書く活動を通して、さまざまな書き方を身に付けさせる。「かくってたのしいね」を活用する。</p>	<p>音読カードの活用・ワークシートの工夫・動作化などを通して、イメージの具体化をはかる。内容と自分の経験を結びつけて、感想や登場人物への手紙などを書く活動を行う。</p>
算数	<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な場面を提示することで、式の意味を考えて問題解決をするようになってきた。 ・計算カードを使い、繰り返し計算をすることで、計算の力がついてきた。 ・形遊びや長さ比べなどの操作活動を充実させて量感覚を育てることができた。 			
	課題	<p>繰り上がり、繰り下がりの基本的な計算が不十分なため、筆算の学習でつまづく児童がいる。 新しく習う掛け算の九九を定着させる。</p>	<p>時刻と時間・長さの単位と測定・かさの単位・3桁の数は、生活と結び付いていることが多いため、経験により理解度に差がある。</p>	<p>文章題では、複雑な問題になると加法と減法、どちらの式をたててよいのか分からない場合がある。</p>
	改善策	<p>ブロックや位取り表を使って、繰り上がりや繰り下がりの意味を確実に理解させながら、筆算の仕方を学習する。宿題や朝学習などで継続的に練習したりT・Tの時間も活用して個別指導を行ったりして、楽しく繰り返し練習ができるよう工夫する。</p>	<p>仕組みを確実に理解できるように段階ごとに分かりやすい具体物を用いたり、プリントをやったりして学習を深められるようにする。直線を引く活動は、繰り返し行うことで習熟できるので、算数に限らず普段から使用し、定規を使いこなせるように指導していく。</p>	<p>文章題では、式をたてる前にキーワードを見つけて、何を問われているのかを考えさせるようにする。また、すぐに式を立てずに図などを用いて考えるよう指導する。さまざまな問題に繰り返し取り組ませることで、気をつけなければいけないポイントを理解させる。</p>

生活	<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校探検や体験学習、「遊びの林」など2年生との交流の時間を十分確保することで、幼稚園や保育園との交流会では、どのように関わりをもつとよいのか考えながら活動を工夫することができた。 ・作って遊ぼうでは、手作りのおもちゃをグループで計画・実践することで友達との交流を楽しむことができた。 		
	課題	<p>動植物に興味・関心はあるが、生活科の活動以外に植物を育てたり、生き物を飼育したりする経験が少ない。</p> <p>自分の家の周りは、知っているが、地域にある古い神社・お寺、公園などの様々な建物・施設のことをよく分かっていない。</p>	<p>他の学年の児童に関心はあるが、なかなか交流の場が持てない。</p>
	改善策	<p>一人一鉢ずつ植物を育て、収穫の喜びを味わわせる。教室で小動物や虫などを飼う機会を与え、観察や世話を継続的に経験させる。</p>	<p>学年全員で町探検をしたり、自分が見つけたすてきな場所を紹介したりする活動を通し、<u>集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようにさせる。</u></p>
音楽	<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて、歌ったり、身体表現したりして、リズムの違いを感じとれるようになった。 ・打楽器や鍵盤ハーモニカに親しみ、簡単な演奏ができるようになった。 		
	課題	<p>拍の流れや、フレーズを感じとって、楽しく歌ったり、身体表現したりできるようにする。大きな声で歌おうとして、怒鳴ってしまう児童がいる。</p>	<p>鍵盤ハーモニカの技能に個人差がある。<u>個々の目当てをもたせて、意欲的に取り組めるようにする。</u></p>
	改善策	<p><u>範唱や範奏を聴かせて、きれいな音に気付かせ正しい音程やメロディーで歌えるようにする。声を聴き合ってきれいな声で歌うように指導する。</u>リズム打ちの練習を多く取り入れ、2拍子・3拍子・4拍子を感じて歌ったり、演奏したりできるようにする。</p>	<p>「けんぱんハーモニカ練習帳」を利用し、<u>個々に応じた目当てをもたせ、達成感を味わわせる。</u><u>階名唱を繰り返して正確に覚えてから曲を練習する。</u></p>
図工	<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料の特徴を十分理解させ、制作の手順を明確にさせることでイメージを広げながら楽しく制作できた。 ・のりやはさみなど用具の正しい扱い方を身につけさせることでそれぞれの造形活動の中心となる活動の基本を確実に理解させ、自分なりの工夫ができるようになった。 		
	課題	<p>絵の具を使用する際に、使い方が十分でないことに加え、既成の画材から好きな色を選ぶことはできるが、表したい色に仕上げることは難しい。</p>	<p>のり、はさみなどの基本用具の取り扱いが十分にできていない。それによって、表現を広げられない場合がある。</p>
	改善策	<p>ドーナツや身近な植物を薄く塗ったり点描で描くことで、絵筆の先の使い方や水の量の調整などに気づかせていく。さらに表したいことを表すために、<u>2色以上の色を組み合わせるとどのような</u></p>	<p>のり、はさみの使用については、生活場面や他教科の授業を通じて、量に気をつけ線に合わせて貼ったり、方向や順序などに気をつけて切ったりで</p>

		色になるか体験をさせる。それにより、好きな色を選ぶだけでなく、色を楽しみながら、自分の思いを表現し、発想を広げられるようにする。	きるようにする。「手を働かせて使う」場面を多く設けることで、創造的な技能や表現力を高められるようにする。	
体育		<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体のバランスを取ったり移動したりする動きや用具を操作したり、力試しをしたりする動きなど多様な動きを作る運動遊びを取り入れることにより、楽しく運動することができた。 ・用具の準備・後片付けのしかたや運動の順番やきまりを明確にすることで、協力して安全に運動ができるようになった。 ・友達との練習や競争をする活動を多く取り入れることにより、お互いに励ましやアドバイスを おくり、友達とのかかわりのよさを体験しながら運動することができた。 		
	課題	<p>ボール運動では、積極的に取り組む児童と消極的な児童との間に差がある。</p>	<p>遊具など手足を使ったり、体全体を使ったりする運動で不得意な子が少ない。特に、マット遊びや鉄棒遊びなどで多く見られる。マットの用意・片づけに時間がかかる。</p>	<p>集団で取り組む運動において、協力したり励まし合ったりすることが苦手な児童もいる。</p>
	改善策	<p>一人ひとりがボールに触れる回数を増やし、投げる・捕るの基本を授業の中で確実に身に付けさせる。 ゲームも工夫し、全員がボールに触れる機会を増やす。</p>	<p>休み時間に遊具でたくさん遊ばせる。授業でも、鉄棒・マット・跳び箱運動の時間を多くもち、児童に器具や器械を使った運動を行う機会を多くもたせ、苦手意識や恐怖感を取り除くよう配慮する。マットの運び方なども指導する。</p>	<p>グループで運動する活動を増やし、自分たちで考える時間を多く取り入れることにより、グループで協力したり励まし合ったり工夫したりする力を育てる。競技のルールを丁寧に教え、よりよい運動にするにはどうすればいいか考える時間を設ける。 グループ編成を工夫する。</p>

【3年生の授業改善推進プラン】

	<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間をとおして、ミニ作文を書き、友だち同士で読み合う活動を続けることにより、書くことへの抵抗がなくなるとともに、使う語彙も増えてきた。 ・ 特に物語文では、音読カードを活用したり、動作化をとり入れることにより、場面の様子を具体的に想像したり、登場人物の気持ちになって、表現しようとしたりする意欲が高まった。 			
国語	課題	<p><u>自分の考えが明確になるよう順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書くようにする。</u></p>	<p>内容の中心に気をつけて聞いたり、筋道を立てて話したりできるようにする。</p>	<p>漢字を正しく書けるようにする。また、<u>語彙を増やし表現力を豊かにする。</u></p>
	改善策	<p>新聞、物語、手紙、短作文、日記などの文章を書く活動に取り組む中で、<u>自分の考えが明確になるように事柄の順序に沿って工夫して文章を書けるようにする。</u></p>	<p><u>考え方を周囲にわかりやすく伝えるための話型をおさえた上で、二人組やグループなどでの話し合いの場を多く取り入れる。</u> <u>「聞く」だけではなく、賛成反対、付け足し、言い換え等の意見で自分の考えと比べながら聞く姿勢を育てる。</u></p>	<p>国語辞典を常備し、国語辞典の使い方を理解させるとともに、<u>わからない言葉を調べる習慣をつけさせる。</u>日々の漢字練習や小テストを充実させ、<u>日常の文の中で学習した漢字を正しく使うことができるようにする。</u></p>
	<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域探検・多摩川での自然観察を実施した。また、子どもたちの日常生活の中から自分の町のおすすめ情報を発表しあう活動を行うことにより、地域への関心を深め、学習活動に積極的に取り組んだ。 			
社会	課題	<p><u>地域における社会的事象を、地図や各種の具体的な資料を効果的に活用し、観察、調査する。</u></p>	<p><u>地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を育てる。</u></p>	<p><u>地域社会について、調べたことや考えたことを表現する力を育てる。</u></p>
	改善策	<p><u>地図を読む力を身に付けるため、地図記号のカードを一人ひとりに持たせ、覚えられるようにする。観察、調査の手立てを示し、支援する。</u></p>	<p><u>数や量に着目して調査したり、他の事象と対比しながら観察、調査したりなど、考える際の観点を提示する。児童から出た良い考えを紹介する。</u></p>	<p><u>授業を終えて、考えたことをノートに書かせ、発表させる活動を増やす。</u> <u>新聞作りを通して、図や表、グラフなど、あらゆる方法を提示する。</u></p>
算数	<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的な計算力の個人差が大きかったため、宿題や朝自習、T・Tの時間を活用して、継続的に計算練習した。時間的な差はまだ大きいですが、計算の仕方は、ほぼ全員ができる 			

	<p>ようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章問題は、具体物、絵、テープ図などを用いて、イメージ化をはかった。文章の中からキーワードを見つけ、印をつけることにより、正しく立式できるようになった児童も増えてきた。 		
課題	基礎基本の定着を図るとともに、それらを適切に用いる力を伸ばす。	既習事項を使って、自分の考えを表現したり、説明したりし、思考力を高める。	かさ、長さ、重さについて理解を深め、目的に応じた単位・計器を選択し測定する力をつける。
改善策	<u>問題解決に向け、必要に応じて自分の考えを整理できるようなワークシートを使用する。また、大田のプリントを活用したり、習熟度学習や IT など学習形態を工夫する。</u>	単元における既習を確認し、ノートに自分の考えを書く習慣を身につけさせる。 <u>また、自分の考えを周囲にわかりやすく伝えるための話型を日常の学級活動から意識して指導する。</u>	具体物を操作する活動を通して、その量がどの程度の大きさであるか、およその見当を付けたり、計器を使うことで、どの場面で使うのが適切か、生活場面での効率的な測定、表示ができるよう活動を工夫する。
理科	<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ミニトマト、小松菜をかんさつカードに記録することによって、生長の様子をとらえることができた。 多摩川での春さがし・虫取り、学校やせせらぎ公園での秋さがしをとおして、自然の季節の移り変わりに対する興味・関心が深まった。 		
課題	昆虫や植物を育て、観察を続けることで、生物を愛する態度を育てるとともに <u>生物と環境とのかかわりについての見方や考え方を育てる。</u>	<u>物質の性質について、実験や観察した結果を比較しながら調べ、その性質や働きについての科学的な見方や考え方の基礎を養う。</u>	
改善策	アゲハチョウやプールから救出したヤゴを育て、観察カードに記録し、生き物に対する愛着や興味・関心を育てる。 <u>多摩川河川敷を活用し、植物や昆虫の観察した環境にも着目させ、季節の変化をとらえさせる。</u>	<u>実験や観察を意欲的に取り組ませるためにも、一人一つずつ道具を持たせたり、できるだけ少人数のグループで実験したりする。</u> <u>実験の前に予想を立て、実験結果から何が分かるのかを考えさせる。</u>	

	<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽に合わせて、歌ったり、体を動かしたりして楽しむことができた。 鍵盤ハーモニカや打楽器での演奏をとおして、合奏する喜びを味わうことができた。 		
音楽	<u>進んで音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして</u>	<u>基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取るようにする。</u>	<u>様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽を味わって聞くよ</u>

		<u>生活を明るく潤いのあるものにする。</u>		<u>うにする。</u>
	改善策	<u>リコーダーや歌のテストを通し、個人で音楽表現するだけでなく、集団で協力する活動を取り入れる。</u>	<u>視唱や視奏によって旋律の動きや旋律同士のかかわりを意識できるようにし、友達と協力して一つの音楽を作り上げる活動を取り入れる。</u>	<u>音楽を形づくっている要素の働きや演奏表現の違いを感じ取りやすい楽曲など、児童にとって魅力のある教材を選択することによって、音楽を聞く楽しさを味わうようにする。</u>
図工		<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵の具・サインペン・クレパスなど、様々な方法を体験させ、描くことの楽しさを実感することができた。特に絵の具は、色の混ぜ方や、水の加え方を一斉指導で体験させ、絵の具の特性を2年生なりにつかませることができた。 ・ 図工で使う基本的な用具（はさみ、のり、セロハンテープなど）を体験させた。自分の想いをのびのびと表現してできた。 		
	課題	<u>材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、造形的な能力を伸ばす。</u>	新たな用具（カッターナイフ、のこぎり、釘、金づち等）の安全な使い方を身に付ける。	
	改善策	<u>いろいろな用具を使ったり、木材や、布、プラスチックなどいろいろな種類の素材を使ったりして、それぞれの素材の特徴を生かした作品作りをする。</u>	<u>初めて使う用具の使い方を指導し、安全に使うためのポイントを徹底させながら、その技が少しずつ難しくなるようなスモールステップの課題を入れた作品テーマを与える。</u>	
体育		<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なわとび、鉄棒などの学習カードを作成したり、運動会で取り組んだりした。子どもたちにめあてをもたせて取り組んだことにより、一人一人の技術が向上した。 ・ ボール遊びやおに遊びでは、チームを作り、ゲーム化することにより、意欲を高め、互いに学びあう姿も見られるようになった。また、二人組や少人数で練習する時間を確保したり、ルールを工夫して全員がボールに触れるようにしたりすることで、一人一人の運動量を確保し、技術も徐々に高めることができた。 		
	課題	<u>児童数の多さから、運動の場や機会の十分な確保が難しい。</u>	<u>友達と教えあい、励ましあい、高めあいながら運動の技能を身に付けていく。</u>	
	改善策	<u>学習展開を、2学級合同でも交互に運動する時間帯を設け、運動量を増やしていく。また、準備運動で体力を高める運動を取り入れていく。</u>	<u>個人種目では、トリオやディーなどの少人数学習にし、互いの技を見合い、助言する時間を設定する。チーム種目では、作戦や練習方法を考える時間を設定することで、話し合う時間を確保する。また、教え合いがしやすい技能のポイントを示す資料を提示する。</u>	

現在の4年生は、今年度5月に区の学習効果測定（国語・社会・算数・理科）を行いました。その結果を分析した上で、教科ごとの課題と授業改善策を検討し、以下の通りまとめました。

学習効果測定をもとにした授業改善推進プラン【4年生の国語】

<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の時間のお話タイムを大切にし、子どもたちの聞く、話す力を伸ばすよう努力し、多くの子どもたちが、1つのテーマでしっかり話すことができるようになってきた。 ・漢字指導をくり返し、小テストの取り組みを進めた。また、日記指導を継続し、日記文の中に学習した漢字が使えるよう励まし、少しずつ漢字を意識して使用するようになってきた。 					
内容別分析	<p>国語科全体の平均は、<u>期待正答率を6ポイント以上こえており</u>、前学年までの学習の実現状況はおおむね良好といえる。</p> <p>物語文の内容を読み取る問題は、<u>期待正答率を約3ポイント</u>、説明文の内容を読み取る問題は、<u>約4ポイント上回り</u>、多くの子どもが文章を読み取る力を身につけ、理解しているといつてよい。</p> <p>漢字を書くことは、<u>期待正答率を10ポイント</u>、言葉についての理解は4ポイント、作文を書くことは、<u>9ポイントと区平均をいずれも上回っている</u>。<u>よく努力している</u>といえる。</p>				
	関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語
観点別分析	<p>多くの児童が<u>進んで読書するとともに、最後まであきらめずに丁寧に読み、理解しようとしている</u>。中には、<u>丁寧に読むことを面倒がる児童もいる</u>。</p>	<p>聞くことについては、<u>9割の児童が話の中心を意識して、聞くことができている</u>。話すことについては、<u>6割程度の児童は意欲的である</u>。</p>	<p>自分の意見を書くことは、<u>8割以上の児童ができていた</u>。<u>一定の文字数や段落構成を考えて、相手や目的に応じて適切に書くことについては、3割～4割の児童は、努力が必要である</u>。</p>	<p>物語文の読み取りは、<u>6～7割をこえ、おおむね良好であるが、説明文では、期待正答率に達しない項目もあり、目的に応じて大きくまとめるが読む力が必要である</u>。</p>	<p>漢字の読みは<u>9割の正答率であるが、文字を正しく書けた子は8割弱にとどまった</u>。<u>指示語の使い方、国語辞典の正しい使い方については、まだ、あいまいさが残る</u>。</p>
課題	<p><u>読書、漢字練習、音読などの取り組みにおいて、意欲的に取り組む児童とそうでない児童の差が大きい</u>。</p>	<p><u>互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合おうとする</u>こと。</p>	<p><u>自分の伝えたいことを明確にし、中心が読み手に分かるようにしながら、段落の続き方に注意して書く</u>こと。</p>	<p>物語文では、<u>場面の情景を叙述を基に想像しながら読む</u>こと。説明文では、<u>細かい点に注意し、内容を大きくまとめるながら読む</u>こと。</p>	<p>漢字を正しく書けるようにすること。 <u>指示語の使い方を理解すること</u>。 <u>語彙を豊かにすること</u>。</p>
改善策	<p><u>読書カード・音読カードを利用し、目標をもって、楽しく意欲的に取り組めるようにする</u>。漢字テストは<u>スモールステップを設け、自分のめあてをもちやすくする</u>。</p>	<p>日常の授業で、<u>話し合い活動を指導計画の中に位置づける</u>。二入 少人数グループ クラス全体といったいろいろな場面を設定し、<u>話し合いの機会を増やす</u>。</p>	<p><u>作文メモを事前に作成し、初め・中・終わりの柱立てを明確にする</u>。<u>文章を読み直し推敲すること・友達の作文を互いに読み合って学ぶ</u>ことを習慣付ける。</p>	<p>物語文では、<u>登場人物の気持ちや場面の様子について、想像したことを発表しあう活動を増やす</u>。説明文では、<u>一つ一つの言葉の意味を正しく理解させ、段落の要点をとらえる学習を繰り返す</u>行。</p>	<p>漢字小テストでは、<u>テスト直しに重きをおき、再テストを行って、定着を図る</u>。教科書に出てくる<u>指示語について、指している言葉を確認するとともに、書く学習においても指示語を正しく使えるよう指導する</u>。</p>

学習効果測定をもとにした授業改善推進プラン【4年生の社会】

<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学や体験的な学習、作業的な学習に多く取り組ませることにより、学習内容が自分の生活と密接に関連していることが分かり、身近なものとしてとらえ、理解を深めることができた。 ・調べ学習を取り入れ、発表体験をさせることにより、見学や体験学習の際は、進んで調べたいことをまとめたり、施設の方に積極的に質問をしたりすることができた。 				
内容別分析	<p>社会科全体の平均は6割2分を超え、区の平均より約5ポイント高く、前学年までの学習の実現状況については、おおむね良好と言える。</p> <p>すべての単元において区のポイントを上回っているが、「地域の店の仕事」「地域の農家の仕事」の正答率はそれぞれ53.2%、47.0%と低かった。</p>			
	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
観点別分析	<p>正答率は、5割3分に達しており、区の平均を約4.4ポイント上回っている。</p>	<p>正答率は、5割5分に達しており、区の平均を5ポイント上回っている。</p>	<p>正答率は6割2分には達している区の平均を約6.3ポイント上回っている。</p>	<p>正答率は、全体で6割3分に達しており、区の平均を約4ポイント上回っている。</p>
課題	<p>期待正答率には7.1ポイント足りていない。</p>	<p>正答率が8割5分を超える問題もあるが、正答率が5割に達しない問題もあった。特に地図を参考にしながら、市役所や郵便局の立地条件を考え、説明する問題の正答率は6.5パーセントと著しく低かった。</p>	<p>工場で働く人々に関する資料を読み取ったり、買い物調べの表を読み取ったりする問題の正答率が5割に達しておらず、表、グラフ等の資料の読み取りが苦手である。</p>	<p>地域にあるいろいろな店の特色やビニールハウスで野菜をつくる利点についての問題の正答率は期待正答率より20ポイント低く、理解不足である。店で働く人の仕事内容が正しく理解できていない。</p>
改善策	<p>視聴覚教材を活用したり、六郷用水の見学を行ったり、興味・関心をもって学習に取り組めるような授業作りを行う。<u>八方位を教室に掲示し日常的に活用できるようにする。</u></p>	<p><u>調べたことや考えたことを表現する力を育てる授業の工夫が必要である。3年生で学習した記号の確認、活用をして定着させる。白地図を使った指導を充実させる。</u></p>	<p><u>観察や資料活用の技能の習得のために、日常から表・グラフ・写真等の資料の基本的な読み取り方の指導や、既習事項と関連付けて考える習慣を身につけさせる。</u></p>	<p><u>見学の際、働く人へのインタビューで聞き取ったことを仕事内容や工夫という視点でまとめる活動をいれる。</u></p>

学習効果測定をもとにした授業改善推進プラン【4年生の算数】

<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習内容に応じて、習熟度別、少人数、TTなどの学習形態を工夫したことにより、個に応じたきめ細かい指導が可能となり、基礎的な学習内容が多くの児童に定着した。 具体物や半具体物を実際に操作し、自分たちで測定方法を考えたり、見つけたりできるような授業を多く取り入れたことで、学習意欲が向上した。 				
内容別分析	<p>算数科全体の平均正答率は8割を超え、区の平均ポイントより5ポイント程度高く、全観点で区の平均を上回っている。学習の実現状況については概ね良好と言える。</p> <p>問題の内容別正答率も期待正答率大きく上回るものが多く、すべての内容で区の平均正答率を上回っている。「分数や角の大きさの比較」や「文章問題にあった立式」では、正答率が他に比較すると低いので</p>			
	関心・意欲・態度	数学的な考え	表現処理	知識・理解
観点別分析	<p>正答率は約8割で、区の平均よりも6.4ポイント高く、期待正答率よりは9ポイント高く、算数に対して関心・意欲が高いと言える。</p>	<p>正答率は約7割弱で、区の平均よりも5.3ポイント高くなっている。乗法の誤りの指摘や を使った式に文章題を当てはめるなど論理的に説明する力を更に付けていく必要がある。</p>	<p>正答率は8割を大きく超えており、区の平均よりも4ポイント高くなっている。表現処理する力は概ねついていると言える。</p>	<p>正答率は8割強で、区の平均よりも4.5ポイント高くなっている。数量を比較する問題での正答率は低いですが、個に応じたきめ細かい指導の成果と考えられる。</p>
課題	<p><u>計算は意欲的に取り組むが、文章題に対しては、見通しをもち図や数直線などに表してから立式するなど筋道を立てて色々な方法で解決しようとする姿勢が不十分である。</u></p>	<p><u>2つの量の変化を表したグラフを読み取ったり、 を用いて文章題を式に表し、基準量を求めたりすることでのつまずきが見られる。</u></p>	<p><u>計算の正確さは増しているが、角度の測定では、量感を捉えてない誤答が多く、平行四辺形の作図も正確さに書ける。分度器や三角定規を使った作業が確実にできるようになることが課題である。</u></p>	<p><u>図形の定義を説明したり、図形の性質を使って立式し解答したりすること、また、単位の換算など数量の関係を正しく理解させる必要がある。</u></p>
改善策	<p><u>ノート指導を充実させ、式や答えだけでなく、図や数直線に表して自分がどのように考えたのかを分かりやすく説明できるようにする。</u></p>	<p><u>文章題を読んで立式する際は、加減乗除のキーワードに着目したり、テープ図・線分図・数直線を用いて考えられるようにする。</u></p>	<p><u>量感を育てるために、具体物を使った体験学習を取り入れていくようにする。分度器・コンパスなど繰り返し練習し道具の多様な使い方を身に付けさせる。</u></p>	<p><u>具体的な操作活動を通して、性質に気付かせるようにする。量感同様具体物を使って単位を正しく理解させる。</u></p>

学習効果測定をもとにした授業改善推進プラン【4年生の理科】

<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な生き物、アゲハチョウやモンシロチョウ、プールから救出したヤゴを育てたことで、児童の生き物への興味関心を高め、生命を大切にすることを育てることができた。 実験を通して、予想をたて、結果を考察することで物の性質や働きについて、考えることができた。また、その考えをおもちゃづくりに活用できた。 				
内容別分析	<p>理科全体の平均は8割弱で、全国・区の平均ポイントより2ポイント程度高い、全観点で区の平均を上回っている。学習の実現状況については概ね良好と言える。</p> <p>「物と重さ」の単元では、区の平均を8ポイント以上上回り、形や体積を変えたものの重さを比べる実験を通して、ものの性質についての科学的な見方や考え方が身についている。「植物の育ち方」では、区の平均正答率を下回っており、自然の規則性や関係性についての見方を広げていく活動を今後も重視していく。</p>			
	関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	知識・理解
観点別分析	<p>正答率は約7割強で、区の平均を3ポイント以上上回っている。身近な生き物を育てる活動を重視したり、日常生活と理科で学習したことを関連付けて指導したりした成果が表れたといえる。</p>	<p>正答率は約8割弱で区の平均を4ポイント弱、期待正答率で8ポイント以上上回っている。学習の定着状況は良好である。</p>	<p>正答率は約8割弱で区の平均を4ポイント近く、期待正答率を8ポイント以上上回っており、学習の定着状況は良好である。</p>	<p>正答率は約8割で区の平均を4ポイント強、期待正答率を7ポイント以上上回っており、学習の定着状況は良好である。</p>
課題	<p>期待正答率を上まわっている解答が多いが、「太陽の動き」「電気の通り道」では、下回っている。</p>	<p>期待正答率を上まわっている解答が多いが、「太陽の動き」「電気の通り道」で、二つの事柄を関連付けて考える必要のある問題では、正答率の低い傾向が見られる。</p>	<p>昆虫の足の本数と生えている場所を図で表す問題は正答率が低かった。</p>	<p>「こん虫の育ち方」で脱皮を繰り返す時期を指摘する問題の正答率が6割程度と低い。観察・実験で、心に強く残る部分以外は、定着率が低いといえる。</p>
改善策	<p>観察や実験など体験的な活動を多く取り入れたり、学習内容と関連した情報を提供したりし、興味・関心の高まりを図る。また、学習した内容の整理を行う。</p>	<p>自分の活動の結果をふまえて、筋道をたてて考える学習を重視し、そのための学習時間を確保する。</p>	<p>学習内容をふまえて、観察した結果を、正確に記録できるように指導する。</p>	<p>学習のまとめの時間を確保し、学習した内容を整理するとともに、それを自分の言葉でまとめることができるようにし、理解を確かなものにする。</p>

音楽	<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの頑張りカードで、休み時間や放課後に個別練習をして1人1人の能力を高めることができた。 ・音楽の時間だけでなくクラスの学活や朝の会などで歌い、みんなが楽しんで歌うようになった。 			
	課題	重奏や合唱を楽しむ	二部合唱をする	様々な音楽に親しむ
	改善策	リコーダーに親しみ、リコーダーの二重奏やいろいろな楽器との合奏を通して、音楽を合わせる楽しさを体験させる。また、お互いの演奏を鑑賞しあう場を作る。	自然で無理のない発声を身につけ、お互いのパートを合わせることによって「合唱の喜び」を味わえるよう、魅力ある教材選びをする。	大作曲家について自分で調べたり、鑑賞したり、エピソードや話を聞くことによって、大作曲家やその音楽に親しめるようアプローチする。
図工	<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵の具を使った混色の学習に取り組み、三原色をもとに色を作る楽しさや、グループでの活動を取り入れることで、一緒に作品を作る楽しさを体験させることができた。 ・カッターナイフ、釘打ち、ペンチなどの多くの道具を使い作品を作ることで、各道具の適切に使用できるようになった。 			
	課題	自分や友達の作品を「認め合う」鑑賞の時間を多く設ける。	用具の正しい使い方を知り、安全に気を付ける。	
	改善策	掲示板での常設展や、作品の紹介時間を設け自分や友達の作品の違いやよさを見つけられる場をつくる。	刃物を扱う課題では事前の安全指導を徹底し、彫刻刀では特殊な軍手をはめさせるなど、怪我を未然に防ぐ準備をしておく。	
体育	<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場の工夫やワークシートを活用して、運動量を確保することができた。 ・ゲーム形式の活動を多く取り入れ、楽しみながらルールを守ろうとする意識を育てることができた。 			
	課題	友達と協力したり、励ましあったりして、互いに高めあい、運動に親しむ態度を養う。	基礎基本の技能の定着。	目標をもたずに授業に取り組んでいる児童がいる。
	改善策	ゲーム領域の運動だけでなく、他の領域の単元でもゲーム形式の活動を取り入れることで、意欲を高め、互いに学びあう機会を設ける。	児童に身につけるべき技能のポイントを明確に指導する。ペア学習やトリオ学習を取り入れ、児童相互で技能を意識しながら学び合う機会を増やす。	学習カードを使い、自分自身の目標を立てることで、課題意識をもちながら授業に取り組ませる。

現在の5年生は、今年度5月に区の学習効果測定（国語・社会・算数・理科）を行いました。その結果を分析した上で、教科ごとの課題と授業改善策を検討し、以下の通りまとめました。

学習効果測定をもとにした授業改善推進プラン【5年生の国語】

昨年度の取り組みにおける成果					
<p>課題であった、目的に応じて書く・簡潔にメモする・感じ取りながら読む・要旨を捉える・言葉の意味を正確に捉える、についてそれを改善する昨年度の取り組みによって、それぞれ区の平均アップ率が向上するなど成果が見られた。特に言語の知識、理解、技能が大変伸びた。これは常に辞書を用意してわからない言葉はすぐに調べたり、単元のはじめにわからない言葉調べをしてから学習に入ったりしたことが効果的であったと思われる。</p>					
内容別分析	<p>国語科全体の平均は7割6分を超えており、すべての領域で区の平均を上回っていることから、学習の実現状況については概ね良好である。</p> <p>観点別に見ると、関心・意欲・態度と言語の知識・理解・技能は高ポイントを続けて挙げている。これは昨年度の課題解決のために重点的に取り組んだ成果が表れたものである。</p>				
	関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語
観点別分析	<p>区の平均を3ポイント以上、上回っている。<u>観点別正答率が全体で、最も高い。</u></p>	<p>区の平均を3ポイント上回っている。全体として7割8分以上であり、児童の話す・聞く力は定着している。</p>	<p>区の平均を4ポイント近く上回り、文章の書き方についてはほぼ定着している。</p>	<p>区の平均を3ポイント上回っているが、<u>領域の中では一番低い。説明文の読み取りが期待正答率を下回っている。</u></p>	<p>漢字の読みは8割近い正答率である。言語事項について確実に力がついている。</p>
課題	<p>国語に関する興味・関心の高さを、読解力向上につなげる指導の工夫が必要である。</p>	<p><u>話の中心が何かを明確にして内容を聞き取る力を伸ばす必要がある。</u></p>	<p><u>段落相互の関係をとらえ、自分の考えを明確にする力を伸ばす必要がある。</u></p>	<p><u>説明文の内容を的確に押さえながら読み、内容を大きくまとめて読み取りする力が、不足している。</u></p>	<p>概ね良好である。漢字を書くことでは個人差が大変大きい。</p>
改善策	<p>読書好きな児童たちの特性を生かし、教科書の物語文や説明文をより意欲的に読めるように指導を工夫する。</p>	<p><u>授業の中で友達の発言を聞き取ってまとめたり、友達と自分の意見を比較してまとめたりする学習を取り入れる。</u></p>	<p>読み手を考えて、文章の組み立てや要旨のまとめ方などのポイントが分かるよう指導を工夫する。</p>	<p>説明文の段落構成をおさえたり、<u>筆者の主張が何かをとらえたりすることができるよう指導を工夫する。</u></p>	<p>楽しく漢字を学習させる指導の工夫と、小テストを繰り返し、その結果からの個別指導を行う。</p>

学習効果測定をもとにした授業改善推進プラン【5年生の社会】

<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <p>本校の校内研究主題「考える子の育成」に即して社会科においても研究実践を重ねた結果、比較したり関連づけたりして考える力が伸びた。</p> <p>前年度に引き続き、子どもたちの学びへの好奇心や興味を引き出すために、子どもたちのつばやきや発見と問いなどが生まれるような資料を提示したことで、資料をていねいに読み取り、多様な考えができるようになったり、根拠をもとに考えられるようになったりした。</p>				
内容別分析	<p>社会科全体の平均は7割を越えており、区の平均正答率よりも5ポイント高い結果となっているので、学習の実現状況については概ね良好と言える。</p> <p>期待正答率から見ると、「県の様子」や「健康なくらしをささえる」は5ポイント以上高い。「地域の人々の生活」は昨年度は0.7ポイント下回っていたが今年度は3ポイント上回り、授業改善の効果が出ている。全体を俯瞰して言えることは、どの領域も平均では期待正答率や区を上回っているが、出題のねらいの項目ではいくつか期待正答率を下回るものもある。そこをしっかりと押さえて今年度の授業改善に生かす必要がある。</p>			
	<p>関心・意欲・態度</p>	<p>思考・判断</p>	<p>技能・表現</p>	<p>知識・理解</p>
観点別分析	<p>期待正答率や区の平均より5ポイント以上高く、社会についての関心は比較的高いと言える。</p>	<p>平均正答率や区の平均より約5ポイント高いことから、調べ学習や資料の読み取りなどで、必要な情報をまとめたり理解させたりする指導が成果として表れている。</p>	<p>区の平均より約5ポイント、期待正答率より約7ポイント上回っている。正答率は、他の領域に比べ高い。地形図の読み取りなども、区の平均を大幅に上回っている。</p>	<p>正答率は区の平均より5ポイント以上、期待正答率より7ポイント高い。既習事項の知識・理解は概ね良好である。</p>
課題	<p>身近なことには目を向けたり意欲をもって取り組んだりするが、社会的事象に対する興味、関心がなかなか高まらない。</p>	<p>さまざまな情報からそれをまとめたり整理したりする力はあるが、それを分析して考えたり判断したりする力がもう少しである。</p>	<p>「水に関するグラフの読み取り」や、「博物館や資料館の適切な利用」、「地図上の距離を読み取る」などの資料活用が不十分である。</p>	<p>たくさんの内容を学習しそれをきちんと暗記して知識・理解として定着している児童と、そうでない児童の個人差が大きい。</p>
改善策	<p>社会的事象を具体的に調査したり、その意味について考えたりさせ、それをいろいろな形で表現するような学習場面を数多く設定する。</p>	<p>収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりする作業をたくさん行い、それを生かして単元の流れの中で「考える」ポイントを設定する。</p>	<p>地図や地球儀、統計などを使用する機会を増やし、グラフや表などで調べたこと・考えたことを表現する学習を取り入れる。また、資料館などにも積極的に出かける。</p>	<p>すべての単元において社会的事象などと関連付けながらどのような関わりがあるかを考え、捉えさせるようにする。考える中で、必要な知識はきちんと定着させる指導法も積極的に行っていく。</p>

学習効果測定をもとにした授業改善推進プラン【5年生の算数】

<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <p>学習効果測定の問題において、期待正答率を「上回っている」もしくは「同程度」の結果が得られたことから、児童が身近に感じられるような学習課題を工夫したこと、学習内容により児童の実態に適した少人数指導の方法を工夫したことが成果につながったと言える。</p>				
内容別分析	<p>算数科全体としての平均正答率は8割を超えており、期待正答率よりも10ポイント高く、区平均正答率よりも高い結果となっており、学習の実現状況については良好と言える。</p> <p>問題の内容別正答率では「<u>がい数の表し方</u>」の単元だけやや区平均正答率を下回っているが、他の内容や領域別正答率（「<u>数と計算</u>」「<u>量と測定</u>」「<u>図形</u>」「<u>数量関係</u>」）ともに、期待正答率、区平均正答率を上回っている。</p>			
	関心・意欲・態度	数学的思考	表現・処理	知識・理解
観点別分析	<p><u>平均正答率は、区平均より約1ポイント、期待正答率よりも約16ポイント高く、算数に対する関心・学習意欲はあるといえる。</u></p>	<p><u>平均正答率は、区平均と同じで、期待正答率よりも約11ポイントも高い。考える力を取り入れた指導の成果と考えられる。</u></p>	<p><u>平均正答率は、区平均より約3ポイント、期待正答率よりも約10ポイント高い。基本的な計算や処理する力が身に付いていると言える。</u></p>	<p><u>平均正答率は、区平均より約2ポイント、期待正答率よりも約9ポイント高い。学習内容を理解することができていると言える。</u></p>
課題	<p>算数ではくり返し練習し、積み重ねていくことが特に重要な教科であるので、関心・意欲が高い状態が今後も続くように、学習内容を確実に定着させていく。</p>	<p>課題を正確にとらえる力、見通しをもち筋道を立てて考える力を伸ばせるようにしていく。</p>	<p>一層確実な定着のために、数の仕組み、計算の意味を含めて習熟を図る。特に、<u>四則計算の際、工夫して確実に計算できるようにしていく。</u></p>	<p>用語や記号の意味と使い方、計算の意味や方法・きまりなどの理解を確実にする。また、算数で用いる器具をきちんと使えるようにする。</p>
改善策	<p><u>児童が興味をもって取り組めるよう工夫すること、学習内容により児童の実態に適した少人数指導（均等・習熟度など）の方法を工夫することを通して、分かる授業・楽しい授業を行う。</u></p>	<p>算数的な活動を一層積極的に取り入れる。<u>自分の考えを、立式したり、図で説明したりする学習を取り入れている。</u></p>	<p>区のステップ学習プリントを活用し、児童の習熟度に応じた学習を進めることにより、すべての児童に基礎基本を身に付けさせるとともに、達成感が得られるようにする。</p>	<p><u>新しい学習内容を指導する時に、既習事項の確認や復習を行い、知識・理解を確実なものにしていく授業を行う。</u></p>

学習効果測定をもとにした授業改善推進プラン【5年生の理科】

<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <p>各自が課題を追求していくことのできる教材教具の工夫をしたことにより、理解の深まりが見られた。</p> <p>問題解決型の学習を行い、予想・考察における話し合いを重視したことにより、科学的な思考力が伸びた。</p>				
内容別分析	<p>理科全体の平均は7割を超え、区の平均よりもおよそ<u>2ポイント</u>高く、期待正答率においても<u>1ポイント以上</u>高くなっているため、学習の実現状況については概ね良好と言える。</p> <p><u>区全体で「季節と生き物のようす」、「動物のからだのつくりと運動」、「天気のようにと気温」、「もののかさと温度」は期待正答率を下回り、本校でも同様の傾向が見られる。区の平均正答率はほぼ上回っているが、「季節と生き物のようす」については下回った。「生物とその環境」についての見方を育てていく活動を今後も重視していく。</u></p>			
	関心・意欲・態度	科学的思考	技能・表現	知識・理解
観点別分析	<p>正答率は<u>7割程度</u>であり、<u>区の平均より1ポイント</u>高くなっている。<u>学習の教材教具の工夫をした成果と</u>思われる。</p>	<p>正答率は<u>7割</u>を超え、<u>区の平均より2ポイント</u>強高くなっている。課題解決の方法や予想を話し合う活動を重視した成果と言える。</p>	<p>正答率はおよそ6割であるが、<u>区の平均より9ポイント</u>以上高くなっている。実験や観察を自分たちで、たくさん活動させたことが良かったのではないか。</p>	<p>正答率は7割強を超え、<u>区の平均よりも、1ポイント</u>ほど高くなっている。インターネットや図書資料等で情報をたくさん得たことが良かったと思われる。</p>
課題	<p><u>区の平均を上回っているが正答率を見ると、個人差が大きい。</u></p>	<p>自ら予想をしっかりと立てた上で<u>実験・観察方法を考えたり、方法や結果を検証したりする力をさらに伸</u>じていく必要がある。</p>	<p><u>実験・観察の技能をより高める、確実に定着を図るために繰り返す、結果を的確に記録</u>することができるようにする。</p>	<p>「<u>季節と生き物のようす</u>」「<u>動物のからだのつくりと運動</u>」「<u>電気のはたらき</u>」について基礎・基本的な知識がさらに確実に定着できるようにする。</p>
改善策	<p>自然や科学的な事象に対する興味・関心を高めるために、体験的な活動を多く取り入れた授業を行ったり、視聴覚教材やインターネットを効果的に活用したりしていく。さらに、学習した内容と関連した情報を子どもたちに提供して、<u>興味・関心の継続</u>を図る。</p>	<p>問題解決に適した<u>実験・観察方法を考えさせ、根拠を明確にして予想</u>することができるよう指導していく。また、<u>実験・観察結果からどんなきまりが導き出せるのかを考察</u>することを重視した指導を行う。</p>	<p><u>実験・観察等の活動を重視</u>する。一人一人が<u>確実に実験・観察を行う能力を身に付けられるように、小グループごとに活動させ、ノートに考察をまとめる</u>指導に重点をおく。</p>	<p>疑問に思うこと、発見したことなどの発想を大切にするとともに<u>実験・観察を通して問題を解決したり法則性を見つけて</u>いったりする過程を重視し、理解が深まるようにしていく。<u>小グループごとに考え合う場を設定</u>していくことを通して知識の定着を図る。</p>

音楽	課題	曲想を生かした合奏をする。	<u>ふしの重なり合う響きを感じ取って、合唱を味わう</u>	アジアの音楽に親しむ。
	改善策	いろいろな楽器に興味・関心をもって、意欲的に演奏していけるよう支援する。	<u>お互いの声を聴き合う場面を持ったり、確かめ合ったりして友達と関わりながら声を重ねる楽しさを味わうようにする。</u>	<u>楽器で演奏したり、原語で歌ったりしながら、音楽を通して異文化を理解するようにする。</u>
図工	課題	<u>自分の表し方で表現したり、新たな表現活動を試みたりして、活動の楽しさを味わえるよう支援する。</u>	<u>前学年までに経験した方法を組み合わせ、自分なりの表し方を工夫する。安全に用具・道具を使用できるようにする。</u>	<u>造形作品などに親しみ、その美しさなどを感じたり、表し方のよさを感じ取ったり、味わったりしながら鑑賞する。</u>
	改善策	今までに経験した材料や用具を生かして表現できる題材を設定する。	<u>形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じを楽しむ考え、作品作りの計画をする。用具・道具の使用における安全面に配慮した指導と管理の徹底を継続する。</u>	<u>自他の作品や美術作品などを鑑賞したり、自分の作品を紹介できる場を設ける。</u> (ふりかえりカードの活用)
家庭	課題	家庭生活に関心をもち、家族の一員として協力しようとする態度を育てる。	衣食住に関する基礎的な知識や技能を身につける。	
	改善策	題材の内容や構成を見直し、学習指導の工夫をする。 一人ひとりに課題を与え、家族と協力して家庭の仕事を実践できるようにする。	<u>各題材における基礎的・基本的な知識と技能を明確にし、確実に習得させるための指導法を工夫する。</u> 実践的、体験的な学習活動を各題材に取り入れる。	
体育	課題	学級数が多く、単学級での校庭使用が少ない中で運動量を確保することが難しい。	<u>学級児童数が多く友達と協力したり、教え合ったりして運動に親しむ機会が少ないので、それを改善する必要がある。</u>	<u>1000人規模の学校なので、校内のけがが多く、けがの防止の定着を図る必要がある。</u>
	改善策	<u>校庭だけでなく、体育館や屋上を含めて、運動する場を確保し、場に合った運動の質を高める。</u>	<u>ゲーム・作戦・ゲームという順でふり返りの時間を設定し、お互いのよさを認め合い、助言し合う機会を作る。</u>	<u>安全な生活を送るために、自分のもつ力を理解したり、判断したりする能力を育成する工夫をする。</u>

現在の6年生は、今年度5月に区の学習効果測定（国語・社会・算数・理科）を行いました。その結果を分析した上で、教科ごとの課題と授業改善策を検討し、以下の通りまとめました。

学習効果測定をもとにした授業改善推進プラン【6年生の国語】

<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <p>スピーチ活動の場や感想や意見を出し合ったりする学び合いの場の設定を工夫してきたことから、進んで発表することや他の人の意見等を聞くことの楽しさが感じられるようになってきた。蔵書が増えた学校図書館や地域の図書館の積極的な活用、朝読書や本の紹介等の取り組みを進めた結果、児童一人ひとりが愛読書を持ち、読書への意欲が高まってきている。</p>					
内容別分析	<p>国語科の全観点で区の平均数値を上回っている。この結果から、国語科における学習の定着度合いについては概ね良好と言える。</p> <p>「話すことと・聞くこと」「書くこと」「言語事項」においては、8割を超え、区の平均数値をも上回っており、本校の研究成果を日頃の授業の実践に取り入れ、取り組んできた効果が表れていると考えられる。</p> <p>国語の関心・意欲・態度が他教科と比較しても特に高く、各教科に活用できる言語活用能力の育成の取り組みに期待が高まる。</p>				
	関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語
観点別分析	<p>区の平均よりも6ポイント程度高く、8割を超えている。この結果から、国語についての関心は比較的高いと言える。</p>	<p>正答率は、区の平均を7ポイント程度上回っている。豊かな表現力の育成を目指した取り組みの成果が表れてきていると言える。</p>	<p>正答率は区の平均よりも6ポイント程度高い。文章の書き方についての理解が定着してきていると見られる。</p>	<p>正答率は、区の平均を5ポイント程度上回っているが、効果的な表現などの読み取りを苦手とする傾向が見られる。</p>	<p>正答率は、区の平均を6ポイント程度上回っている。中には漢字の成り立ちを苦手とする児童もおり個人差がある。</p>
課題	<p>国語科の学習がどの教科・領域においても基本となるので、今後も国語に関する興味・関心を高める。</p>	<p>相手の意図を理解したり、相手に的確に伝えたりする力だけでなく、計画的に話し合いに臨む態度を身に付ける。</p>	<p>目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように自分の考えを効果的に書く力を身に付ける。</p>	<p>叙述に即して読む力と、表現のよさや効果を感じ取りながら読む力を身に付ける。</p>	<p>漢字の読みや部首とともに成り立ちについても関心をもつ。主語と述語の関係や文の構成を理解すること。日常的に使用する語彙を多くする。</p>
改善策	<p>読書の範囲を広げる活動として朝読書・学校図書館の有効活用を図ったり、名文を暗誦したりする。それらの活動を通して考えを広げたり深めたりする。</p>	<p>国語科の学習にとどまらず「計画的に話し合う場を多く設定し、話し合うことよさや効果等を感じられるようにする。</p>	<p>表現しようとする中心な内容を明確にもたせ、推敲することの大切さやよさが感じられるようにする。</p>	<p>言葉に着目し、語感について話し合い、効果的な表現や優れた表現などを味わえる場を多く設定する。</p>	<p>説明的な文章を学習する際などに、語句相互の関係をとらえられるようにする。学習の中で日常的に国語辞典を活用していく。</p>

学習効果測定をもとにした授業改善推進プラン【6年生の社会】

昨年度の取り組みにおける成果				
<p>我が国の国土の様子や産業の様子を学習するにあたって、できるだけ身近な情報を通して考えられるように取り組んだ結果、学習内容が自分の生活に深くかかわっていることに気づき、社会的な事象への関心に高まりが見られた。</p> <p>社会的な事象について自分なりの考えをもち、表現する力の向上が見られた。</p>				
内容別分析	<p>社会科全体の平均は6割強を超えており、期待正答率よりも12ポイント以上高く、区の平均よりも高い結果となっており、学習の実現状況についてはおおむね良好と言える。</p> <p>「我が国の農業や水産業」「我が国の工業生産」「わたしたちの生活と情報」の全領域で、期待正答率及び区の平均値を上回っているが、「日本の農業」「わたしたちの国土と気候」では期待正答率を下回った。単元によって差が見られることがわかる。</p>			
	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
観点別分析	<p>本校の正答率は6割を超え、区の平均を6ポイント、期待正答率を2ポイント上回っており、平均値よりは上回っている。</p>	<p>本校の正答率は7割を超え、区の平均を6ポイント、期待正答率を2ポイント上回っている。自分なりの考えをもつことを重視した取り組みの成果ではないか。</p>	<p>本校の正答率は6割を上回り、区の平均よりも6ポイント上回っていた。しかし、期待正答率と同ポイントで単元によって資料の読み取りを苦手とする児童が多いことがわかる。</p>	<p>本校の正答率は、期待正答率を2ポイント下回っている。</p> <p><u>地図上の海流の位置や気候の名称、特徴など未定着な部分が見られる。</u></p>
課題	<p>調査内容は5年時のものである。現在、6年で学習している歴史・政治等の分野においても、興味・関心をもって学習に取り組めるようにする。</p>	<p>歴史においては人物の果たした役割、政治の学習においては民主的な社会のあり方等を十分考えさせる。</p>	<p>表やグラフなどの資料を適切に選んだり、資料を関連付けて読み取ったりする力を身に付ける。</p>	<p>歴史や政治の分野では、登場する人物の名前や難しい語句でつまづく児童も見られる。基礎的な知識を確実に身に付ける。</p>
改善策	<p>興味をもって学習に取り組めるよう、学習資料、テレビ番組等を活用した授業づくりを行う。また、体験談を聴く会や学習したことを伝える会、模擬体験や見学などの活動を行う。</p>	<p>授業の中で、当事者の思いや考えを話し合う場面を多く作るようにする。歴史ノートづくり等の書く活動では、調べた内容だけでなく、自分の考えを書かせるようにする。</p>	<p>地図や地球儀、年表などの<u>各種の資料を活用し、資料から分かることや、2つ以上の資料を関係づけて考えたり、ノートなどに考えをまとめたりする</u>活動を設定する。</p>	<p>人物や語句については、図や写真、映像等を効果的に活用したり、ワークシートや人物カルタ等の教具を工夫したりして、確実な定着を図る。</p>

学習効果測定をもとにした授業改善推進プラン【6年生の算数】

<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <p>計算の方法を考える時間を十分に確保したり、答えの見当をつけることを繰り返し指導したりしたことで、計算の意味の理解が深まってきている。</p> <p>具体物や図、数直線などを使った、立式の手がかりとなる活動をたくさん経験させたことで、文章を読んで式を立てる力が確実に育ってきている。</p>				
内容別分析	<p>算数科全体の平均は8割を超えており、区の平均よりも5.4ポイント高く、学習の実現状況については良好と言える。</p> <p>すべての領域で正答率は8割を超えており、いずれも区の平均より3ポイント以上高い。どの領域の学習実現状況も良好と言える。</p>			
	関心・意欲・態度	数学的思考	表現・処理	知識・理解
観点別分析	<p>正答率は8割を超え、区の平均より6ポイント以上高い。算数についての関心は高いと言える。</p>	<p>正答率は8割弱だが、区の平均より5ポイント以上高い。個人差は大きい。文章を読んで立式する力は育っている。</p>	<p>正答率は8割を超え、区の平均より約6ポイント高い。基本的な計算や処理の力はよく身に付いていると言える。</p>	<p>正答率は8割5分以上で、区の平均より4ポイント高い。個人差はあるが、基本的な学習内容の理解は概ねできていると言える。</p>
課題	<p>「できる」喜びも大切ではあるが、「分かる」喜びを多くの児童に味わわせていく。</p>	<p>問題の意味を正しくとらえ、筋道を立てて問題を解決する習慣を付けさせていく。その際、既習事項を適切に使うなど、自分なりの解決方法を見出させていく。</p>	<p>定着のためには反復練習は必要であるが、ただ繰り返すだけでなく、計算や処理方法の意味を考えながら問題を解決する習慣を付けさせていく。</p>	<p>全体的に定着率が高いが、個人差が大きいので、個人差に対応した指導を工夫していく。</p>
改善策	<p>少人数指導の特性を生かし、一人一人への支援を充実させ、「分かる」授業づくりをしていく。また、教材・教具に工夫を行い、児童が興味をもてる授業作りをしていく。</p>	<p>昨年度に引き続き、具体物や図、数直線など、立式の手がかりとなる活動をたくさん経験させていく。また、解法が複数考えられる問題を多く取り扱い、それらを紹介させていく。</p>	<p>計算において、答えの見積もりや検算の方法などをつねに意識させたり、量と測定で、常に<u>量感を意識させたりする</u>指導を行っていく。</p>	<p>必要に応じて習熟度別学習を採り入れ、児童一人一人の学力に応じた指導を行っていく。また、区のステップ学習プリントを活用し、すべての児童に基礎基本の定着を図り、自信をもって学習できるようにする。</p>

学習効果測定をもとにした授業改善推進プラン【6年生の理科】

<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <p>実験・観察を通して問題を解決したり法則性を見つけていったりする過程を重視し、考えあう場を設定したことで、関心・意欲をもって学習に取り組むことができた。</p> <p>一人一人が確実に実験・観察を行うことを重視した授業を工夫し、記録や結果をノートやワークシートに正確にまとめる指導を行ったことにより実験観察の技能や表現する力が高まった。</p>				
内容別分析	<p>理科全体の平均はおよそ7割弱で、全観点で区の平均を上回っている。学習の実現状況については、概ね良好といえる。</p> <p>「もののとけ方」の単元では、区の平均を8ポイント上回り、実験を通して問題を解決する過程を大切にされた成果が表れている。「電流のはたらき」でも区の平均正答率を6ポイント上回った。児童が主体的に取り組む、自ら予想したことを、実験を通して解決する活動の成果と考える。</p>			
	関心・意欲・態度	科学的思考	技能・表現	知識・理解
観点別分析	<p>正答率は7割で、区の平均よりも0.6ポイント以上高くなっている。学習した内容と関連した情報を子どもたちに提供したこと、身近な事象と結びつけながら考えられるように工夫をしたことの成果が表れたと考えられる。</p>	<p>区の平均よりも2.3ポイント以上高くなっている。実験・観察結果からどんなきまりが導き出せるのかを考察することを重視した学習が良かったのではない。</p>	<p>正答率は7割強で、区の平均よりも10ポイント近く高くなっている。個々の正答率を見ると、個人差が大きい観点であった。</p>	<p>区の平均よりもおよそ1ポイント高くなっている。単元により、よく理解している部分と、足りない部分の開きがある。実感を伴わないものに対して、理解が低かった。</p>
課題	<p>今後も意欲的に実験や観察に継続して意欲的に取り組めるよう、指導方法、授業の構成を工夫していく。</p>	<p>実験する際に、必ず仮説を立て、推論しながら見出した問題を計画的に追及できる力を育てていく。</p>	<p>ひとつひとつの実験や観察を正確にする力、実験結果を読み取る力を今後も育てていく。ノートに結果や思考したことを表現し、分かりやすくまとめていく。</p>	<p>自然の事物・現象についての実感を伴った理解を今後もさせていく。実際に実験や観察がしにくいものでも、視聴覚教材を効果的に活用する。</p>
改善策	<p>体験的な活動を多く行うことで生活の中の身近な事象や既習内容と結び付けやすくする。必要に応じて視聴覚教材やインターネットを効果的に活用する。</p>	<p>児童が見通しを持って実験・観察の予想をするよう指導する。また、その結果からなぜそのような規則性が導き出せるのかを考察することを重視した指導を行う。</p>	<p>実験や観察の際には、小グループの活動を重視し、児童一人ひとりが取り組めるよう配慮する。また、グループごとに実験方法を考え、必要な道具を揃えて実験するなどの機会を設け、知識を生かして表現できるようにする。</p>	<p>理科の学習で学んだ事柄が、実際の自然の中で成り立っていることに気づいたり、生活の中で役立てられていたりすることが確かめられるような指導計画を工夫する。</p>

音楽	<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級の子どもがお互いに協力し合って練習し、学習発表会を成功させた。 ・歌唱ではソプラノパートやアルトパートのパート練習やグループ活動によって、お互いに高めあうことができた。 		
	課題	いろいろな楽器に親しんだりアンサンブルをしたりして楽しむ。	ふしの重なり合う響を感じたり、詩の意味を味わったりしながら歌う。
改善策	鍵盤楽器や打楽器などいろいろな楽器に取り組めるよう、指導支援する。	お互いの声を聴き合う場面をもちお互いに評価し合う。	いろいろな国々の音楽を原語で歌ったり、リコーダーなどで演奏してみたり、CDで鑑賞したりして異文化を理解する。
図工	<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の想いをより具体的に表現できる題材や、材料・用具に適した題材を設定した結果、自分なりの表現をする力がついた。 ・材料や用具についての指導を徹底した結果、安全な使い方を習得することができた。 		
	課題	材料や用具を選び、表現方法を試したり、やり直したりしながら、表現活動の楽しさを味わえるよう支援する。	前学年までに経験した用具を生かし、表現に適した方法を組み合わせ、表し方を工夫する。安全に用具・道具類を使用できるようにする。
改善策	今までに経験した材料や用具を生かして表現できる題材を設定する。	新たな表し方や楽しい発想を取り入れ、人に伝えることを意図しながら表し方を工夫する。材料や用具・道具についての安全な使い方や管理の指導を徹底して行う。	自分や友人の作品の意図や工夫について考えさせる機会を増やし、鑑賞カードを利用して作品と向き合い、ふりかえる場を設ける。
家庭	<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活に関して興味、関心がもてるようになった。 ・児童同士が関わり合いながら考えたり、活動したりすることができた。 ・実践的、体験的な学習活動を多く取り入れることにより、楽しみながら基礎的な知識や技能を身に付けることができた。 		
	課題	家庭生活に関心をもち、家族の一員として協力しようとする態度を育てる。	衣食住に関する基礎的な知識や技能を身につける。
改善策	題材の内容や構成を見直し、学習指導の工夫をする。一人ひとりに課題を与え、家族と協力して家庭の仕事を実践できるようにする。	実践的、体験的な学習活動を各題材に取り入れる。技能の習熟を図るための教材、教具を工夫する。学習内容を生活の状況や場面と関連付け、実態に応じた教材、学習方法を考える。	
体育	<p>昨年度の取り組みにおける成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校庭や体育館だけでなく、屋上も含めて体育学習の場を設けた。気温が高い時期には難しいが、それ以外のときには体づくりの運動や表現運動、ボール運動など場に応じた運動をすることができ、技能が高まった。 ・1単位時間の中にチームやペア、トリオで友達と互いにアドバイスできるような手立てをとったことで、技能の高まりだけでなく、運動に親しむ態度が身に付き、学級の良い雰囲気作りにもつながった。 ・けがの防止と心の健康については、視覚教材を用い児童の実体験をもとに学習したことで、理解を深め、健康に過ごそうとする態度が身についた。 		
	課題	児童数増加のため、運動の場や機会の十分な確保が難しいこと。	自己に適した課題をもち、児童相互で解決を目指して運動ができること。
改善策	運動量を確保できる授業展開と場の設定など工夫を行う。	相互解決できるよう、技のポイントとつまずき改善ポイントや練習方法を提示する。	朝や余裕の時間、体育授業の初め等を利用して少しずつ劣っている体力を補う運動を取り入れ、積み重ねて体力を付けていく。